

第11号

医療と福祉のサポート室たより



2024年1月発行 新潟医療センター 医療と福祉のサポート室

新年おめでとうございます。今年も『医療と福祉のサポート室』をよろしくお願ひいたします。

今号では、10月3日に開催された「こばりの広場」のご報告と介護支援等連携指導料算定について取り上げました。

介護支援等連携指導料の算定が増加しています

各病棟の働きかけにより、介護支援等連携指導料の算定件数が増加しています。

令和5年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
算定件数	5	5	5	8	27	50	37	42	171



～病院とケアマネが共同し、退院後に望ましいサービス等の情報提供を行うことへの診療報酬～

◇なぜ算定が必要なの？

- ①入退院支援加算Ⅰの施設基準要件として、年間40.25件（月4回）を下回ってはいけない。
- ②何よりも患者様・家族が退院準備をスムーズにできる。退院後の生活の支援体制づくりのため。

◇何をしたら増えたの？

退院支援看護師を中心に、算定の流れの改定の他、病棟看護師の方々の取り組み強化だと思います。

今まで算定対象だが、算定していなかった‘漏れ’を無くすため

フローチャートの整理・電カルで算定入力

中間カンファレンスの実施

退院直前ではなく、中間的な時期にケアマネと連携することで、

介護認定の区分変更が適切に実施できる。

退院を見越した目標を病院・ケアマネ・患者家族と共有できる。

◇厚生連のほかの病院も取り組みは？

当院を除く厚生連全体の平均は月26件、多い病院では月70件算定しています。

こばりの広場 開催報告

2023年10月3日に今年度2回目のこばりの広場を開催いたしました。

- ・参加者：院内（医師、病棟・外来看護師、薬剤師、認定看護師、地域連携支援部）
57名 院外（地域包括支援センター小新小針、
在宅医療・介護連携ステーション西、小新小針圏域のケアマネ）
- ・内 容：『変化する認知症の状態に応じて、私たちはどう対応するべきか？』
居宅介護支援事業所のケアマネジャーからの話題提供をもとに、
グループワークを実施

・参加者の声

《感想・次回に向けてのご意見》

- ・多職種連携の勉強の場としてありがたい。
- ・様々な専門的立場からの考え方や、方法を聞くことが出来て良い刺激になる。
“こばりの広場”は毎回話しやすい雰囲気である。
- ・毎回、回を重ねるごとに、医療・介護の距離が近くなっているように感じる。
病院により対応に温度差がある。他病院も同じような相談体制が整うと良い。

《検討したい事例やテーマ》

- ・外来⇨ケアマネ間の相談、連携はまだ少ない。
どこまで相談できるのか、連携方法についてさらに深めたい。
- ・身寄りのない方、親類と疎遠、連帯保証人が立てられないケースで
状態悪化し入院が必要な場合の支援。
- ・明らかに認知機能が低下しているが、受診に至っていないケースの支援。
- ・認知症の方に対応した薬の服用の仕方について知りたい。
(飲みたがらない、飲み込めない、口の中にため込んでしまう時など)
- ・認知症への対応、受診に繋げる方法、治療の現実、家族支援について。



〈年頭のご挨拶〉

新年明けましておめでとうございます。

私たちの病院は、昨年大きな変革を遂げました。救急をキーワードに、地域包括ケアの拠点となる明確な目標が出来ました。院内外で人と人が繋がって、さらに丁寧な医療、介護、福祉に取り組んでいきましょう。これは今春以降に予想される行政の取り組みでも、注目されている視点です。是非とも皆様の変わらぬご協力をお願い申し上げます。

地域連携支援部長 西山健一